

進路探究学習を核にした教育課程の編成 異校種の連携を意識して



札幌市立山鼻南小学校

住所：札幌市中央区南29条西12丁目1-1

児童（生徒数）：317人

本校では、平成26年度から「体験的な活動」を大切に「課題探究的な学習」を推進し、総合的な学習の時間を見直している。27年度は、高学年の担任が山鼻中学校を訪問し「総合的な学習の時間」を参観した。28年度は小中合同でのワークショップを実施し、小学校でも中学校でも大切に育てていくべき「資質・能力」について検討した。また「進路探究学習」を、本校教育課程の一つの柱に位置づけ、職員全員でカリキュラムを見直すワークショップを定期的実施することで、より実態に即した教育課程の編成を心がけている。

推進のポイント

〔地域を知る〕

まずは校区周辺にある商店や公共施設を把握することが重要と考えた。2年生の生活科の町探検や3年生の社会科の校区探検では、地域のリソースを調査し、お店訪問やゲストティーチャーとして協力していただける方やお店をリストアップした。また、小中連携の視点から、本校では、中学校の「総合的な学習の時間」を学ぶため、中学校の担当者と連携し、数名の教員で授業を参観することから始めた。

〔計画する〕

各学年の生活科や総合的な学習の時間のカリキュラムを見直し、リストアップしたリソースを生かせるような活動を探る。前年度までの活動を確実に引き継ぐとともに、地域の方々に協力いただけるよう早めに連絡を取ることが重要である。

〔校内体制を整える〕〔次年度につなぐ〕

単年度、単学年で活動が途切れないよう、どの学年が、どのような活動をしているのかという情報共有が重要である。本校では「教育課程編成ワークショップ」と称して各学年の「生活科」や「総合的な学習の時間」のカリキュラムを全員で検討し、学年間の系統性を意識した上で、よりよいつながり、より効果的な活動を求め、検討を進めている。

＜山鼻中学校との交流＞

小学校と中学校の2学期開始時期の違いを生かして、進路探究学習を積極的に推進している山鼻中学校と、合同で研修会を実施した。中学校の先生方に小学校の授業を参観していただき「小中で連携して育てたい力」を検討した。

グループに分かれ、KJ法で付箋紙ワークを実施し「主体性」「コミュニケーション力」や、ベースとなる「情報活用力」「話す聴く力」について、9年間を見通して育てていくことの重要性が確認できた。



ワークシートや学習の流れがわかる資料、連絡先などを引き継ぐため、専用のフォルダにデータ保管するとともに、印刷したものをファイリングして目に見える形で引き継ぐなど、複数の手立てを用意した。



具体的な取組

＜3年生 山鼻南探検隊＞

3年生では、「校区にあるお店の人気の秘密を調べ、情報誌にまとめる」活動を実施している。校区を探検した時に校区にある商業施設をリストアップし「なぜここにあるのか」「人気の秘密は何か」を訪問して情報誌にまとめ、交流している。



＜5年生 チャレンジ！なかよしプロジェクト＞

5年生では、次年度の新1年生のお世話を充実させることを目標に、校区の幼稚園保育園児との交流を実施した。実際に施設を訪問し、幼児のお世話を体験することで事前の準備の必要性を実感していた。また、喜んでもらうための様々なアイデアを出し合い、試行錯誤することで問題解決的な学びを実現している。



＜6年生 中学校への道＞

本校の6年生は、多くの子が柏中学校、山鼻中学校に進学するため、小中連携を意識し、2学期に柏中学校の教師による英語の出前授業と、山鼻中学校合唱コンクールの練習見学を実施した。3学期には各児童の進学先の中学校を訪問し、授業参観を実施している。